

特別講演会



令和3年1月29日

18:00-19:00 ZOOM



座長 東京大学医学部 生体構造学 教授
吉川 雅英

英国における新型コロナウイルス (COVID-19) パンデミックの状況

英国レスター大学

医学・生命科学研究科副研究科長、循環器内科教授
レスター・ライサインズ・アクセラレーター（イノベーション研究所）所長

鈴木 亨



後援: 杏林学園副理事長 松田剛明
杏林大学医学部付属病院 肝胆膵外科 診療科長 阪本良弘

英国における新型コロナウイルス(COVID-19)パンデミックの状況

鈴木亨

英国レスター大学 医学・生命科学研究科副研究科長、循環器内科教授
レスター・ライフサイエンス・アクセラレーター (イノベーション研究所)、所長

Professor Toru Suzuki MD PhD FRCP FHEA

Chair of Cardiovascular Medicine, Associate Dean, College of Life Sciences

Director, Leicester Life Sciences Accelerator, University of Leicester

Honorary Consultant Cardiologist, University Hospitals of Leicester

新型コロナウイルスが世界中を駆け巡り始めてから1年が経過した。英国では、新型コロナウイルスによる感染者数は320万人に達し、死亡者数も9万例を超えた。本年1月上旬には1日の新規感染者数は6万5千人を超え、医療従事者の殉職者も600人を超えた。現在も全国規模でのロックダウンを実施中である。

英国と日本は人口、経済、財政など多くの面でのスケールで似ている（国土は日本が英国の約1.5倍、人口は日本が英国の約2倍、経済・財政面では両国とも一人あたりGDPは約47,000ドルであり、ともに先進国で医療水準も高い。OECDの調査によると、日本は英国に比し人口あたりのベッド数は5倍多いが、対GDP保健医療支出額、保健医療支出に占める一般政府財源割合、一人あたり保健医療支出額、人口あたり医師数は大きな差がない）。

英国は新型コロナウイルスの対峙を通して、この1年間で多くの試行錯誤を強いられた。その知見や経験が日本にとって役に立つことを期待し、本セミナーでは英国でのコロナウイルスの感染状況の推移ならびに対策の経過について概説・共有し、議論したいと考えている。

略歴

英国レスター大学医学・生命科学研究科副研究科長ならびにレスター・ライフサイエンス・アクセラレーター研究所長。東京大学循環器内科での勤務を経て、2014年に渡英。レスター大学の循環器内科教授として大学ならびに附属病院で勤務（英国の医師免許ならびに専門医資格を取得し、病院ではコンサルタント職として勤務）。職場である附属グレンフィールド病院は英国の循環器疾患の拠点病院。英国で臨床と研究の両方に従事。2020年から副研究科長ならびに研究所長に就任。専門は循環器内科学ならびにフェノーム学（英国のナショナル・フェノーム・プロジェクトに臨床・トランスレーショナル拠点として参画）。また、データサイエンスと産学連携パートナーシップを軸に、大学ならびに大学病院の医療・ヘルスケア領域におけるイノベーション活動を担当。